

## 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立吉祥院小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 3クラス 92名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	車いすバスケットボール選手や育成学級児童との関わり等の体験を通して、誰もがいきいきと過ごすために、自分たちができることについて考える。
5 取組内容	<p>事前の取組として、オリンピックで行われる競技のルールや使用する道具、有名な選手などと、パラリンピックで行われる競技のルールや使用する道具、有名な選手などを本で調べた。また、それぞれの違いについて話し合った。</p> <p>当日は、①車いすバスケットボールのデモンストレーション、②車いす体験、③選手の話・質疑応答の流れで学習した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>車いすバスケットボールの選手と交流することを通して、選手の生活の様子や障害があることへの思い、困難を乗り越える前向きさや強さ、車いすを巧みに操作するすごさなどに気付くことができた。また、本校には車いすの児童がいないため、車いすで生活する人に接することが初めての児童もいて、車いすをはじめ障害のある人は自分たちとは違う「特別な人」ではなく、自分たちと同じようにいろいろなことをしていることに気付くことができた。</p>

	<p>事後の取組は、パラスポーツの選手との交流を振り返り、障害のある人についての考えを交流した。</p>
6 主な成果	<p>来ていただく前は、障害のある人に対して「かわいそう」「大変だ」など自分たちが「〇〇してあげる」という目線で見えたり発言していたりする児童がほとんどであった。実際に車いすバスケットボールの選手に来ていただき、様々な話を聞かせていただいたり、車いす体験したりしたことを通して、かわいそうなどころもあるけれど、自分たちでは到底できないようなことをされていることに気付いたり、前向きな姿に感動したり、思っている以上にできることが多く困っていることが少なかったりすることを知り、気持ちの部分で大きな変化が見られた。</p> <p>その後の学校生活の様子を見ても、以前に比べ友達や他学年（特に低学年）や育成学級の児童に対する声かけが変わってきている。</p> <p>また、オリンピックやパラリンピックについて、以前より知識が増え、話題にのぼるなど、関心が高まった。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>事前に地域にある社会福祉協議会の方にゲストティーチャーとして福祉や地域の障害のある人の様子について話をしていただいた。困りのある人への学習をしていたことで、児童は車いすバスケットボールの選手の話の理解がより深まった。</p>
8主な課題等	<p>当初、児童同士で車いすバスケットボールの試合をするという予定だったが、学習の流れ上、選手の生活や思いについての話を中心に当日の学習を組み立てた。前半に車いす体験や車いすバスケットボールのデモンストレーションを見た後は、なぜ車いす生活になったのか、車椅子生活で困っていることはなにか、車いすバスケットボールでのことについてたっぷりお話していただいた。とてもよい話を聞かせていただけたので、とてもよかった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今年度同様、総合的な学習の中で「共生社会」をテーマに取組んでいく予定である。</p>